京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

本紙定價 ▲一枚金二錢 ▲一ヶ月前金三十五錢 ▲三ヶ月前金九十錢 ▲六ヶ月前金 [illegible] ▲一年 [illegible]
月曜日及び大祭日の翌日は休刊(日刊)
廣告料 ▲五號活字十七字詰一行金 [illegible]
發行兼編輯人 高木久太郎
印刷人 松久 [illegible]
發行所 京城南大門通 京城新報社 電話 [illegible]
仁川支局 仁川宮町三丁目 電話二一一番
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町七番地

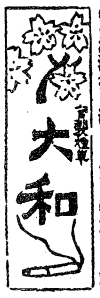
●哈爾賓より

釋尾旭邦生

寺内總督閣下

奉天より申上候通り、四日朝奉天を發して長春に向ひ候、安奉線とは變りて一望平野にして例の黍と大豆畑に過ぎざるも、地味肥沃、部落も多く人煙可なり盛なりと云ふを得候、長春にては滿鐵經營の大和ホテルに投宿致候、是又到底京城ホテルの比には無之、其規模と云ひ設備と云ひ全く歐米式で日本人經營のホテルとは思はれず、余輩の如き田舍漢は聊か勝手が判からず身は既にモスコウかペルリンの一角に在る樣思はれ候、長春は御承知の通り南滿鐵道の終點にして露國の經營せる東清鐵道との接續點に候を以て、何となく一種の興味と感慨とを以て馬車を縱横に驅り月光と電燈の助けを假りて長春の一般を觀察致候、細密なる觀察は歸途に譲りて其夜の十一時何分の東清鐵道の列車に投じハルビンに向ひ候、露人の經營せる鐵道丈ありて粗大には候へども何となくゆつくり致候、長春以北は益々眼界濶大にして極目際涯無く、坦として天に連る、此大平原が澄み渡りたる一輪の寒月に照されたる光景は何とも名状し難き大觀にして詩興を禁ずる能はざる次第に候、翌朝の八時ハルビンに着し、我同胞經營の東洋館と云ふ日洋折衷の旅館に投宿致候、朝餐を喫し終日馬車を縱横に驅りて晝のハルビンを視察し、夜に入ると更に裏面のハルビンを視察致候、四方一里に渉る市街は露人の町にして兵隊を除きてロスキーの住むで實に四萬人と云ふ事に候、亦盛なりと申べく候、京城に於て小なる日本を視る事を得せばハルビンに於て小なる露國を視たりと言ふも過言にあらずと信候、市街は甚だ粗大粗雜を免れざるも露都を距る万里の此地に斯くも多くの露人南下して大都會を成せるを見ては、露の膨脹力の強大なるに今更の如く喫驚し、更に其南下力の前途計るべからざるものあるに戒心せざるを得ざるなり、想ふに彼れ如何ぞ長く此地にて南下の大志を抑止せん、彼れ如何ぞ長く地を當して北満に志を安せん、我北進力は果して彼れの南下力を永久に防止し得るか、是れ吾人の疑問とする所にして又我國人の最も研究戒心して之が對抗策を要する所と信候、彼れ北満無量寶の富みを擁し更に南満に垂涎す、彼の志や決して小ならずと信じ候、ハルビンは一面より見て露國の軍事的經營地なり、然して又北満七千萬圓の貨物集散地なり、面積約四十萬キルメートルの茫々たる大平原を流るゝ松花江畔に位し、一ケ年約三千萬圓の貿易高を有する露國の新植民地的一大都會なり、ハルビンを以て伊藤公の横死に依つて記臆を新にする如き輩は共に満洲を説く能はずと存候

ハルビンの停車場に伊藤公を弔ひ、三千フイトの松花江上の大鐵橋に、沖、横川の兩志士を弔し、一轉してグランドホテルの露料理に舌を鼓ち士耳古風呂に満洲垢を洗ひ、露人特意の一種特別の活動寫眞に夜を更かし、終に佛國美人の酌で夜を明かしたる晝夜兼行的大活動に至つては天下を驚倒せしめ挟絶せしむるに足るものなるも後日の樂み汔今は是れにて擱筆。余は是より長春に引き返し、大連に出で營口旅順を過ぎりて十日過には此廣い寛やかな満洲より狭い狭いてせ〳〵した朝鮮の而も京城に歸らねばならぬ次第に候、樂しくもなり不愉にもなり、寺内さんや明石さんを寺内に此廣い寛かな北満洲の露人經營地を見學させたしと愚考致居候、先はハルビンを去るに臨み一筆如件(十一月六日夜記す)



文苑

●短歌　芦硯舎

朝鮮を北に行く雁戀ひしとて泣きさしも我が見笑みしも我が見

夕暮の鐘の音沈む雨の夜を小女子わづらう戀のなやみに

君と別れ歌なき三年東海に漁する我が胸君さて問ふな

花に置く露の雫と我なりて君が御裾をぬらさんと思ふ

戀ひしさに君の裏路をやろ行く山の端の月さても美し

濃霧に太き吐息の青ざめぬ我れども見られ我が変哉

花小さき高原の夕を漂郎が微笑み寂し北峠の空

●摩天嶺開鑿工事

宮崎工兵中尉の一隊は本月一日より咸鏡北道摩天嶺の開鑿工事に着手し既成部は既に二十町に及べり而して之に要する人夫は城津警察署の手より五日間交代に出役せしめ可成運搬す因に同工事は四萬六千六百圓の工事なりと

俳句

仁川卯月會俳句第九輯(一)

▲題 菊いろ〳〵(奉祝天長節佳節)(併祈國家安寧)一字詠込

一千四百章中抜萃上座五十聲逆列

彩雲居 丹葉 選

霜天に澂て眞白し菊の花
朝に晴し天氣や菊馨る
憂國の志士謎人ぞ菊の亭
菊咲や伏家の脊戸も覗るゝ
晴に倚る佳人の袖や菊薫る
咲き殘る國豐也幾久の花
美の神は菊寧る女仙かな
天秤棒菊賣る人に不似合よ
黄菊白菊亂れ咲たる草家哉
咲く迄は安心出來ず菊作り
安神は樂りも入らず菊の庵
子に家督譲つて我は菊の世話
菊作る人は安樂氣樂かな
羨やまぬ隣家の賓菊の主
家事は子任せて菊の手入哉
咲く迄の樂み長し庵の菊

柳仙　松部　柳仙　海南　梅園　竹賀　是空　色葉　凌霜　洪水　一骨

外事一束

▲黄興● 推されて大都督となり武昌革命黨大本營前祭壇に革黨の大事を誓明す

▲南京● 形勢未定江南提督死守するに決し將校會議を開き白旗掲者大官雖斬

▲大勢● 既に定る尚慘劇を見るは人道上不可朝廷幼帝を擁し潔歴す可しと即

▲讓位● 説熱河蒙塵説盛んに沮勒先發として夜に乘じ熱河に發向の形跡有と

▲蒙塵● は北京の平和維持上清人外人共に賛意を表す清國當局者亦止なくば

▲列國● の干渉を俟つて之を行ひ市中滿漢人衝突の慘劇を未然に防がんと云

▲北京● 危機愈迫り天津亦險惡に獨露居留民保護を名とし同地駐屯兵を増す

▲革黨● 曰く目指は中清にして滿洲に非ず滿洲の如き之を他に割讓して可と

▲滿洲● 兵石家に漢人統制祿貞を殺し漢人復讐を企る旬滿彊兵の大衝突起る

▲伊軍● 飛行機に爆烈彈を載せトの土軍を敗り土軍ヂルアナに大勝を博すと

▲英國● 首相新参政案を今議會に提出し以て婦人にも参政權を與へんと期す

梁川庄八（やながはしやうはち）

第三十三回　小金井蘆洲演

大灘は満身の力を込めてウーと押切て来る奴を、ツゝと砂を摺つて勝見山土俵際迄下つて來たが、ウムと踏へた見物は一層激しく聲援をする近來は聲援とするにも秩序が立て居る間体に一人番頭取りが有て旗なぞを振つて號令をする夫に和して一整に聲を發して呼ぶ「太刀山!振れ〳〵」なんと云有様だが彼が何の位力士の爲には味方になるか知れない今勝見山が呼吸を覗ひ大灘がウーと押すカを假て左へ打捨つた自分の力に負けて体の泳ぐ所を後ろへ廻つた孝太郎尻を一つドンと突たらヒロ〳〵〳〵と土俵を飛出して行司溜の所へドシンと大の字姿に大灘は倒れた、見物はワアーと騒ぐ「馬鹿野郎一概お見やがれ」「意氣地なし野郎やい」と囃立られ、面目なくて外聞が悪くつて居られない者だから、道う〳〵の体で衣類を抱へて見物の中を抜けて、ドン〳〵勝補へ逃げて歸つて了つた、見物は種んな物を投げ饅頭をする「勝見山は豪い者だな」「實に強い者でせゐまさあ」「勝見山〳〵」と口々に賞め立てる、代官甚太夫は愈々的が違つて、益々躍起となつて眞赤になり、領主里見家の抱力士濱碇大五郎と云、是は二段目十兩を取る相撲だ、夫を呼んだ 甚「碇われ出て一番勝見山と取れ」濱「ハイ御代官様の仰せでは御座いますが、例年當場所は午前は素人相撲、午後先は商賈人と區別を付て居る者を、今日に限つて私の様な者でも素人の勝見山と取組めと云のは、恐らく迷惑に存じますが」と云のは當然だ、甚太夫は憤つた 甚「黙れ……扨は其方は素人の勝見山に敵い体能く断るのだな、其方も御領主里見家の御抱でありながら、此方の下知を背くに於ては、殿様へ申上て御抱へを暇になるやうに取計ふから、左様心得ろ」濱「ヘエ誠に恐入ます、左様ならば據ございません、取りますでございます」甚「速に取れ」澁々ながら濱碇大五郎土俵衣を脱いで溜へ這入つた、今孝太郎は勝軍配を貰つて下りやうと云處へ、代官手附の役人が 役「勝見山暫く待て土俵を下りる事はならんぞ、御代官様の御下知だ、此濱碇と今一番取れ」濱碇は土俵へ上ると、見物は疑訝な思をした 甲「今日は又御代官様が不思議な事をしなさるでねへか、素人と商賣人とは豫て取組まぬ事に成て居んだに、如何に御代官様の御沙汰とは云ながら無法の事ぢやあねへか、何か御代官様は孝太郎に遺恨でもあんなさるかな怪しからねへ話しだな、孝太郎降りて了へ、勝見山降ろ」とワイ〳〵怒鳴る、代官手附の目明しは、グズ〳〵云て居る者の傍へ來て、十手を振廻し「默れ〳〵當御代官様の思召に依て仰付られるのに、何を苦情を云ふグズ〳〵云と場外へ引張り出すぞ」と驚かす者だから、面々仕方がないから默て了ふ、孝太郎は大体相撲は巧手ではあるし、濱碇には更らく負ける心地はない、勝ては功名になるし負けても恥にはならないから心丈夫に取れるから、七分の強味がある依て土俵を降りる氣色が見へない、見て居た者は始めは驚いだが勝見山が落付拂つて居るから「如何云ふ團梅に取るか知らん、此處で美事に濱碇を投げれば豪い者だ、併し先方は本職此所は素人、如何に孝太郎が強くても勝てめへな」何うぞ勝たして遣りたい者だ」と面々片唾を呑んで見て居ります、双方大事に仕切つて迂潤には立たない、行司は左右の容子を窺つて行「大事に仕切つて急くまい」と聲を掛ける、充分孝太郎は立つ氣になつて仕掛ると「待たまた〳〵」と濱碇が立つ氣にならない、斯くする事四五回になると、見物はもどかしがつて △「濱碇イ馬鹿野郎ら立てなければ、降参して了へ、腰拔野郎」〇「濱碇何をグズグズして居るんだい、商賈人の癖に意氣地なしめ、勝つたて自慢にはならねへぞ、負ければ飯の喰ひ上げだぞ、大馬鹿野郎」と囃し立て場内は湧くが如くに動搖き渡る、其中に双方呼吸合してヤツと云聲で立つた、濱碇が激しく突いて來るを、得たりと体を更して逼げ腰く叩き込むくと、濱碇は一端へもなく腹這ひに土俵の眞中へ倒れた、見物は一層熱狂して「勝見山」〳〵と呼ぶ、從つて濱碇には惡罵を浴せ掛ると云有様小屋は崩れんばかりの騒ぎと相成りました。



中央財政と牛島（一）

消極策不可なし

我國現下の政費は實に膨脹の極度に達し、國民に對しては殆んど絞れるだけの租税をなし、いい生活難を叫ぶ細民の多きにも關はらず、輸入米穀税の撤廢をすら斷行するを得ず、加ふるに外債十五億を負ひ其利子又鉅ならざる今日に於て、國力の伸張を遂げんと欲せば區々の術策を弄するを止めて、自然の大法に遵ふの外他に其道ある可からず大法とは何ぞ、戰時に於て、一旦の急に應じたる負擔を緩め、以て國民をして健全なる經濟状態の下に勤勞せしめ、其をして樂みて國力増進の道に就かしむると共に、不急の政費を節約し外債償還の餘力を作るにあるのみ。吾人は此大法を外にして國力充實の途あるを信ぜざる者なり。然るに之に反對する者は毎に言ふ、政務を節約して政費を節するは消極方針なり我國力增進の政要は須らく積極ならざる可からずと。政友會の如きも亦積極政策を以て與國の要道なりと信じ、先年政權の同會の手に移るや、政友會内閣は戰時税を永久的租税となし、一方際限なく公債を募集し、其募る能はざる場合に於て未募集公債の目を豫算に計上し、其退陣に先だち石油の新税、酒砂糖の増税等を行ひ、國民の負擔をして益々重からしめたるは今尚記憶に新たなる所なり。其後桂内閣亦積極的方針を執つて進み、愈々我國の經濟をして病的のものとなし、財政の紛糾又如何ともすべからざるに到つて、再び政友會内閣を見るに至れり。而して西侯内閣即ち政友會内閣は、今や明年度の財政計畫に腐心し、その政策として消極的方針に據らんとすと。之を聞く或者の如きは其主義の豹變に驚き兎角の批評を加へつゝあるも、吾人の見る所を以てすれば、政友會内閣が前年の失計に鑑み慎重討究の結果、我財政の紛糾はこれ積極的政策の餘殃なることを覺りしものにして、彼主義の豹變を云爲するが如きは其無分別を益々世上に曝すものなりと言はずんばあらず。殊に國民の財力如何に顧みずして、妄りに政費を増加し之に因て國力の進運を計らんとする所謂積極的政策なるものは之を譬ふれば、大賭博を行ひ萬一を僥倖せんとするものと性質に於て相去ること遠からざるなり。目的は僥倖にあり、若し一案の目反對の方向に現はれ來らむか、忽ちとして窮境に陷るの不幸を見、其危險や實に測る可からず殷鑑近きにあり之を露國に見よ、露のウイツテ氏が執りし財政方針は即ち此主義に基けるものなりしなり。彼は全力をこれに傾注せしも終に成功せず、現に露國が外に手を延しつゝある反比例に國帑疲弊し、政治當局者が常に財政難のために煩悩しつゝあるは、要するに積極的政策の餘殃となすも敢て不可なきなり。吾人は中央政府が茲に着眼し消極的政策を執らんとするは、誠に國家のため慶すべき事なりと言はざるを得ず。況んや、半島經營の如き中央國庫の補助に頼るにあらずんば何事も爲す得ざる今日、國家の財力をして强固ならしめ、半島政費の支出に澁滯なきを期することの最も緊要なるに於てをや。於茲乎、吾人翻つて半島の財政に就て一言なかる可からず、乞ふ次號に論せん。

東京電報

▲**御名代宮渡暹** 暹羅皇帝戴冠式に御名代として御臨席の伏見若宮殿下は十二日西下佐世保より軍艦伊吹に搭乘御渡航せらる

▲**八代司令官北京行** 軍艦日進に座乘せる八代司令官は北京に赴きたり

▲**赤十字員出發** 日本赤十字社に於ては十一日午前清國派遣の臨時救護班員三十餘名を召集し松方社長より一場の訓示を爲し一行は十二日午後七時清渡の途に上れり

▲**奉天領事團會議** 奉天小池總領事は日本領事館に各國總領事を招き時局に關し會議を開きし旨報告ありたり

▲**厦門領事公報** 在厦門菊池總領事の發電によれば福州陷落後市民は變亂の近かんことを恐怖し人心恟々として市場不振の状態にありと

▲**清國公使と留學生** 留學生の談判を避けて横濱に赴きたりし清國公使汪大燮以下館員は十一日午前八時悉く歸館し數日間主人なかりし公使館は再び黄龍旗を掲ぐるに至れり又王公使は十一日夜留學生と會見せり

▲**各省政府を立つ** 長江一帶の地は南京（目下交戰中の地）を除き全部革命黨の手に歸し獨立せる各省は皆政府を設け政綱を發表したる旨其筋に公報ありたり

▲**奉天の危機迫る** 奉天も愈々危急に瀕したりと

▲**清國留學生歸る** 支那留學生は東京公使館より漸く八萬圓を得て歸國の途に就きつゝあるが其數千餘名に達せり

▲**遣英艦隊歸着** 遣英艦隊鞍馬、利根の二艦は十二日横須賀に歸着せり

▲**清國公使と革命黨** 駐日清國公使汪大燮自身の語る所によれば漢人なる氏は伍廷芳とも裏面に於て離れ難き關係あれば遠からず上海に行き革命黨に投ず可し云々

▲**列車主任の轢死** 門司に於ける御召列車脱線したるを以て同列車の清水主任は恐懼の余り遺書して轢死を遂げたり

北京特電

▲**蒙塵說の否認** 皇帝蒙塵の風說に付て那桐が外國公使に言明する所によれば西大后攝政王共に曾て右樣の意向を有しをられず最も形勢日に非なるにより蒙塵あるべき事を主唱せし者ありしも西安といひ熱河といひ共に安全なる地と言ふべからず故に慶親王等の意見に從ひ飽迄も北京に留まる事に決したりと

▲**廣東總督出奔** 張廣東總督は英國領事の保護の下に香港に向け出奔せり

▲**袁入京を報ず** 資政院より屢々電報を以て上京を促がされたる袁世凱は明晩北京に向け直ちに上京すべく回答せり尚北京の商業家團體も袁の上京一日も早き事を望む旨打電せりと

▲**官軍叛軍に降る** 信陽に駐屯せる官軍は悉く叛旗を飜して革命軍に投ず

▲**廣東稍靜穩となる** 獨立を宣言せし廣東は一時動搖せしが北京政府は人民の要求を容れ今後の方針を決定す可しと諭告せし結果稍鎮靜に向ひつゝあり

▲**張と天津領事團** 灤州兵の首領張紹曾は天津の領事團に宛て平和的に天津を占領すべし但し清人抵抗をなすに於ては戰鬪を免かれざるべしとの通牒を發す

▲**露の軍隊集合** 露國は俄かに極東派遣の軍隊をハルビンに集合の計畫を立て各所より軍隊續々哈爾賓に集合中なり

▲**英國の對清政策** 英國總理大臣アスキス氏は「外國人にして危害を受くるの恐れなきに於ては英國政府は清國內亂に干渉をなさゞる旨」當地或向に回報せり

▲**革軍馬賊に通す** 革命軍の王國柱は目下奉天附近に出沒せる馬賊の統領と密會し馬賊と相會して滿洲に事を擧げんと協議中なり

▲**北京に赤十字社** 內外人共力し北京に赤十字社病院を設立し二千人を收容し得る設備となす方針にて委員を戰地に派遣す

▲**出征官軍暴狀** 漢口に出征の官軍は糧食缺乏し秩序保たれず上官の命令は兵士守らず掠奪を擅にしをれるを以て漢口の市民は其暴狀を憤り將さに一大變亂起らんとする兆候あり

▲**資政院滅裂** 資政院議員の大半は何れにか姿を隱したるにより今後開會するも議員の定數を缺き決議は無效なるに至るべし

▲**影響教育に及ぶ** 北京に於ける各學堂は全部休業し學生は殺氣を帶び愈々亂狀の極に達せり

上海電報

▲**慘憺たる漢口** 漢口市街の火災後は頗る慘憺たるものにして繁華の市街悉く烏有に歸し邦人の被害も尠なからず

▲**官軍の大戰近し** 目下官軍は漢陽砲臺準備中なれば近々官革兩軍の一大會戰を見るべし

▲**武昌は靜穩なり** 武昌は昨今靜穩に復し市民各々商業に從事し人心動搖せず

雜報

●**結數徵税比較** 度支部調査に係る本年九月末日現在各道結數徵税比較を聞くに其の結數一百〇二萬九千百四十五結にして其の税額六百六十七萬〇八百八十八圓八十一錢四厘なるが之を前年の同期現在結數百〇七十九圓に比較すれば其の結數に於て一万二千〇四十九の差を呈し税額に於て四萬九千九百八圓五十五錢六厘の增加を來せりと云ふ

●**半島の森林面積** 朝鮮各道に於ける重もなる森林面積を聞くに京畿道八、森林數立木地面積二十六町歩、忠北道同十五同六十一町歩、忠南道同五同十町歩、慶北道同二十九同百町歩、慶南道同八同三十四町歩、全北道同十二同八十四町歩、全南道同五同三十町歩、黃海道同十九同八十二町歩、江原道同四十九同四百十町歩、平南道同三十三同三百八町歩、咸南道同四十三同五百五町歩、咸北道同十四同二百四十三町歩、計一千九百五十六町歩なりといふ

●**十一月上旬の貿易概算** 本月上旬に於ける內地との貿易概算左の如し

移入額	一、三六三、四八二圓
移出品	二八九、一八六
移入超過	一、〇七四、二九六
移入金銀	八九
移出金銀	五九、一〇七
移出超過	五九、〇一八

●**金の産出と鑛山** 朝鮮は比較的金の豐富なる領土なり昨年の産出額（砂金も含む）約一千万圓年々増加の傾向を示すは喜ぶべき事なり而して昨年日本內地の産出額約六百萬圓臺灣の三百萬圓に比すれば優に第一の地位にあり尚朝鮮本年上半期の産出額は約六百萬と稱せらる蓋し本年の昨年に比し産出額の多きは疑を容れざるところなり唯內地人にして見るべきの經營者なきを憾みとす其の他銅鐵黑鉛石炭等何れも有望ならざるはなし但し雲母にいたつて斷言の限りに非ず次に藤田組の鑛山は江原道の通川にあるものを最も大なりとすされど運は採掘に着手するはおろか探鑛さへなさゞれば採掘迄には相當年月を要すべし云々と藤田組の阿部技師は語れり

●**十月中の銀行利子** 總督府の調査に依れる十月中の各銀行利子割合左の如し

貸出金々利

	最高日歩	最低日歩
朝鮮銀行	三錢三厘	二錢一厘
普通銀行	三錢六厘	二錢四厘
漢湖農工銀行	四錢五厘	二錢四厘
平均	三錢八厘	二錢三厘
前月との比較	（高）一厘	（低）三厘

預金

	定期預金 一ケ年	六ケ月	三ケ月	當座預金
朝鮮銀行	五分〇	四分五	ー	ー
普通銀行	五、五	五、三	四分八	八
漢湖農工銀行	六、〇	五、五	五、〇	一、〇
平均	五、五	五、一	四、九	八
前月との比較（高）	ー	ー	ー	ー

●**牛島の衛生行政** 警務總監部衛生課長談…醫藥救療並に衛生事務は合併當初以來施設經營に最も意を用ひたる處なるが其結果頗る顯著なる成績を收め今や邊陬の部落と雖も洒掃行屆かざるなき有樣にて春秋二季の大掃除や流行病發生に際して行ふ豫防法や何れも確實に施され敢て內地の田舎に讓らずと斷言するを得可しと思ふに此の如き大々的の發達を見しは昨年に於ける虎烈剌病の流行に刺激されしもの多きに居らん次に醫藥救護に就ては全羅南道に點在羅列せる小島の如き治化を蒙る薄き住民の爲に警備船に警察醫を乘り組ましめ疾病治療の任に當らしめ居れるが頗る時機に投し警備船の寄港する每に患者踏をなして診療に集まる程なり此他警察醫の配置は警察署所在地丈けの豫算なりしを手當を減じて憲兵分遣所在地にも配備し既に全道百七八十ケ所に及び居れり蓋し在鮮醫師は日人相手の營業本位なるが故に京城釜山の如きは人口に比例して多きに過ぐる位なるも地方は之に反し甚だ稀なれば警察醫の配置は大に便利を增す次第なり又種痘は極力勸誘して特に種痘免許醫を設け今日に於ては殆ど普及せざるなしと云ふを得可し來年度の計畫に就ては事豫算に關係あるを以て今日言明し難き處なるが國境防疫は大に講究を要し滿洲の如き毎年ペストコレラの如き疫病猖獗を極むる地方に接するを以て何等かの設備を爲す必要あり云々

●**仁川の三銀行成績** 去十月中に於ける仁川三銀行の成績左の如し

△諸手形之部

種目	仕向高	被仕向高
送金爲替手形	一、四〇八、三三一	一、三一七、二二〇
荷爲替手形	八六、九六八	八二、五〇九
他所割引	三三〇、一八六	二六四、二〇八
代金取立手形		
計	一、八二五、四八五	一、六六三、九三七

△預金之部

種目	預金高	拂戻高
公金預金	七、一八六	八、九二〇
定期預金	二七、二〇〇	二八、四〇一
當座預金	五、〇三四、四四五	四、九二〇、七五四
小口當座預金	五九、八六八	六〇、七六二
其他預金	四八、四五四	四九、三〇七
計	五、一六七、三三一	五、〇六二、二四四

△貸金之部

種目	貸出高	入金高
貸付金	二九三、三五七	二三三、〇五四
當座貸付金	六五九、三〇六	五九二、六四四
割引手形	六二三、三五五	六一五、五九七
荷爲替	八八、九六六	八九、九七二
計	一、六六六、三四四	一、四二一、三七七

●**東拓と採種田** 東拓會社にては豫て朝鮮の農作に就き改良種の有利なるを一般鮮人の農業者に普及せしめんため沙里院出張所に二十八個所羅島に五個所水原に八個所馬山に十二個所江景に四個所金堤に五個所都合六十二ケ所の採種田を設け出張所技師監督の下に鮮人の精農者を撰びて耕作せしめ居るが成績却々に良く全部の收穫五百五十石の豫定なりとい尚勤勉にして成績佳良なるものには明年度に於て表彰の意味を以て稻扱シャブル等の農具を無償貸與すべしといふ

●**税制調査案完了期** 既報の如く京城民團税制調査案は既に委員の手より民長の手許に提出され爾來民長は是等の案を參酌して別個の調査案を編成しつゝが近々の中には完了すべしと

●**京都觀察團巡覽** 既報の如く京都日の出新聞社主催の朝鮮觀光團は去る十一日夕來京し浦尾旅館に投し目下各所巡覽中なり尙一行は十五日出發の筈なりと

●**京都觀察團の引見** 山縣政務總監は十三日京都觀察團の一行を總督府會議室に於て引見したり

●**京都觀察團員を招待** 山縣政務總監は十四日正午別報京都觀察團員を京城ホテルに招待し午餐の饗應をなす由

●**岡野氏の北京行** 先達て迄當地特派員たりし大阪朝日新聞記者岡野善之助氏は清國動亂に付北京特派を命せられ出張の途次十三日夜當地着十四日出發北京に向ふべしと

●**落合領事の出發** 滯在中なりし新任奉天領事落合氏の一行は十二日朝南大門驛出發任地奉天に向ふ

●**桑園速成の方法** 本年京畿道管內に於ける各授產場を終業したる蠶業授產生は京城府を除き總計二百九十六名なるが其修得したる技術を應用すべく各自の內に桑苗植付の土地なる者に對し其借入費に相當の補助をなす筈にて尚其得たる土地には一反歩內外の桑苗を無料下付し速成桑園を設けしむべしと

●**釋尾旭邦氏の歸京** 露領及北滿南滿地方旅行中なりし釋尾旭邦氏は十二日午前歸京したり

●**横尾牧山兩氏の歸京** 奉天、ハルビン及大連地方を視察したる横尾時事子は十四日牧山電通子は十三日何れも歸京す

●**李完用の總監邸訪問** 既記の如く東上中なりし伯爵李完用は十一日夜歸京十二日山縣政務總監を同官邸に訪問して歸京の挨拶を爲せり

●**村田憲兵分隊長歸京** 咸鏡南道へ出張中なりし村田第二分隊長は十二日夜歸任せり

●**松村憲兵副官の出張** 憲兵司令部附の松村副官は十三日より二週間の豫定を以て黃海道へ出張せり

●**高等小學假校舍移轉** 京城民團立高等小學校全部愈々十日慶熙宮內總督府所管家屋の假校舍に移りたるが鐘路の本校舍は年內に竣成を告ぐる由

●**京城圖書館夜間開館** 同圖書館は來る十五日より夜間開館し一般縱覽人の便宜を計るべしと云ふ因に閲覽料三錢小兒一錢なりと

●**朝鮮煙草會社總會** 朝鮮煙草株式會社は第一回の株金拂込を終りたるを以て來る二十日東京商業會議所に於て創立總會を開くべしと

●**輸出罐詰製造** 慶尙南道廳の補助を受け目下巨濟島に於て製造中なる米國向輸出罐詰は本月一日より十日に至る間約四十樽（鯖百八十尾入）を製造せしか成績極めて良好なりと

●**咸南官有財產調查** 咸鏡南道方面に於ける官有財產の調査は既に大体を終了十一月末迄に出張の調査員は歸任すべしといふ

●**平南成川郡の品評會** 平安南道成川郡の重要農產物品評會は至つて好成績を收め米煙草の出品中見るべき者少なかりしと

公人私人

▲水谷千萬吉（平壤鑛業所長）　十二日入京浦尾へ
▲佐藤潤象（韓國瓦斯取締役）　十二日京城ホテルへ
▲竹村昌計（鎮南浦區裁判所判事）　十二日不知火へ
▲落合謙太郎（奉天總領事）　十二日奉天へ
▲岩崎平吉（同上領事官補）　十二日奉天へ
▲大津誠吉（技師）　十二日釜山へ
▲桑原清佐（文學士）　十二日開城へ
▲谷多喜磨（忠北財務部長）　十一日大邱へ
▲富家正義（技師）　十一日原金へ

▲京城手形交換高▼

	金高	枚數
十一月十三日	一七一、五二一、五六〇	一四〇三

▲治外法權▼

これは南北の兩軍と云つても支那の事ではなく、南軍の司令官が長谷川大將、北軍の司令官が川村大將、ソウして大元帥陛下御統監の下に一大擬戰を試みんとして居る▲南北の兩軍其何れが勝つかは今より斷ずることは出來ぬ、併し司令官が長谷川、川村の兩名將であつて見れば其擬戰の偉觀たるべきは想像の外であらう▲今や清國の天下亂れて麻の如く、ややもすれば東洋の平和が危殆に瀕せんとして居る、此秋に當り期せずして我陛下親ら出て武を練らせ給ふ、東洋の平和は期せずして確保される譯だ▲最近滿洲よりの歸客談に曰く、革命の飛火は既に盛京、長春、奉天に及ぶと、果して之が事實とすれば大豆の相場が狂ふ事であらう▲帝國議會は來る十二月二十三日を以て召集さるるソウだ、ソコで勞頭第一に上るのが清國問題であらうが、政府の對清策も其時には明瞭にならう▲議會と云へば我總督府は例の民團存廢問題を本議會中は有耶無耶で通す積りだソウだで民團の方から云へば該問題に付き本議會中政府に質問を發し言質を取つて置くの必要がある▲京城府廳の土地賣買登記が餘りに緩漫だと云ふ噂があるが、右は申請人等の勝手な熱か、將た府廳吏員怠慢の結果か▲十二日當地高等女學校內に開かれた同校女學生の音樂會は初てのもの故、ドウカと心配したが意外の上出來であつたのは結構であつた。



●人を呪はば穴二つ

▽虻蜂取らぬ岩本さん

時は十一日午後八時、相變らず高いの安いのと兎角の評は絶へねど何處やら好き所ありと見へての全盛を極めて居る第一樓本店の玄關へ乘着けたる護謨輪六臺。仲居の案内で悠然と散財部屋に通りたる連中は彼の岩本英夫君を筆頭に釘本君堀兼君大川君木戸君にて内役は消尾旅館に止宿中の大分縣人佐藤某、此人近々當地に於て金貸を本業に他に何か一事業を起すべき目的にて渡鮮—前記消尾に止宿して狀況視察中前記の方々に懇親を願ひたしとあり同日白水に招待し高論卓說を交換しイザ散會となつたが酔ふて美人の膝に枕せず翌日一日頭が痛むと云ふ御連中。座敷の隅に一塊となりヒソヒソ云つてナカナカ開き相にも致ぬのを見た主人の佐藤さんも満更でないので「甚だ失禮ですが一つ新町へ御案内を願ひたいのですが」と塊りの中間に入るとさしもの塊りがパラパラに崩れ『サアれと夕令だ〜』とヒヨイた崩れが佐藤君と岩本君との主張で此所に一塊りに成つて登樓したのだが其の又奥に顯るの魂膽てそあれ此より先き佐藤君旅館の淋しさに宿の仲居の案内にて第一樓本店の玉江と云ふを敵妓に遊んだのが病つきとなり大概毎晩通ひ居たるにて扨てを第一樓を主張したるなり、然るに一方岩本君も彼の小鈴事件以來町方面妓には鐵條網を張られたので新町方面へ發展を試み既中佐藤君同樓玉江に熱くなつて居る事なれば一も二もなく佐藤君の主張に賛成したる次第なるが登樓後間もなく佐藤君と玉江との關係を嗅ぎ附けるや否此頃開業した同樓の店に行き仲居のれ何に二圓を掴ませ玉江を呼んで玉代金三圓五十錢を手渡しまからた約束があると言つて誰にも出ない樣にしろとの意味を云ひ含め何に食はぬ顔して一座の中に雜りで、ワア／＼言つて居た其の内に愈々敵妓の撰擇になり佐藤君と岩本君が同じ玉江の馴染客と判明したるにぞ何方に歴うと云ふ譯にも往かずサラパとて同じ樓に他の妓を呼ぶも面白からじと佐藤、釘本、堀、大川の四名は吾春樓に轉じたる始末に岩本君とて義理にも玉江は呼べず木戸君は九重、自分には小波を相手に一寸遊んでイザ會計となりしに十七圓餘どあり餘りの事に明細書を出させたるに顔も出さない玉江、月子なぞ出る筈に極つて居た筈の分迄附け込みあり不埒なとは思へども身分を思ふて文句も云へず木戸君が支拂を濟まして門へ出るなり岩本君の曰く『君、玉江には玉は違つて置いたんだが』と、アヽ人を呪へば穴二つ

●親友の女房を匿す

▽親しからぬ親友

大和町一丁目居住津崎一なるもの妻女某が九月十四日本夫一の安東縣方面へ出張留守中內地に居る姉の許へ歸るべき置手紙をなし家出したるを越へて十七日歸宅發見したる一は何分にも合點行かずと電報其他にて親許並に照會狀を往復したるも親許にても只驚く斗りにて何方へ行きしものとも判じ兼ぬるとの事に十月中遂に警察署へ捜査願を提出したる結果は久しく隣家に住居し津崎の妻女が家出する十日程以前に初音町一丁目に轉居したる津崎の親友通信管理局書記補井關某の宅に匿まひ居たる事判明し津崎に引渡されたる由なるが井關には妻女も同棲し居ることなれば醜關係ありての故とも思はれざるが如何なる魂膽ありてか同人は今尚隠んに津崎の妻女が離婚せらるゝを願ひ居るとか

●昔の情婦に恐迫

▽狀を送つて告訴さる

西部盤松坊阿觀方寄並（二七）は今より五年前基督教學校なる西部培花學校生徒當時女生徒なりし目下北部順化坊白狗洞四十七統九戸劉根洙妻淑賢と互に戀し夫婦約束を爲し物品の取合ひ等爲し居たるを校長の知る處となり兩人とも退學を命せられ淑賢の方は日本に留學し廣島縣立師範學校に入學本年四月卒業の上歸鮮し間もなく劉根洙と結婚せしが方寄並は淑賢が留學せし後自分も留學せんとせしも資金なき爲め强盗を働き直ちに其の筋に逮捕され懲役三年に處せられ本年八月滿期出獄せしに淑賢が劉根洙と結婚せしと聞き大に憤慨し淑賢に對し恐迫狀を郵送し西部署に告訴され目下取調中

●高女音樂會の大成功

▽來賓五百名以上

民團立高等女學校の音樂會は既報の如く十二日正午同校々室に開催せられたり校堂の兩側は卒業生十數名の活花及美術製作品にて裝飾せられ尚工藤婦人科病院の栽培に係る菊花三十數鉢を飾り付け既報番組通り喝采場裡に演了せられたり來賓としては樋垣京畿道長官國屋事務局長古城民長各小學校長愛國婦人會員民團商議所議員の各夫人母姉卒業生等五百餘人ありて同校開校以來未曾有の盛會にて午後四時散會したりと

●家出女房の逆戻

[illegible]

●婦人矯風演說會

[illegible]

教育的禁酒の事　婦人と矯風

●五雲會例會

十一月十九日午後十二時半より當地[illegible]五十七回例會を開[illegible]

●新案「座食法」

[illegible]

●龍山小學校の上棟式

[illegible]

●仁川の遺失と拾得

[illegible]

●演藝たより

[illegible]

●歌舞伎座

奈良男一行の浪花節にて初日以來連夜の大入續きに一同勇氣倍して奮闘振り目覺まし

●壽座の千里眼

三田光一の二日目を見た、見物に退屈させない爲めか大分れ芝居をするが夫れが爲の所謂自覺術を全然奇術にして終うのは損だ、透仙は炭燒爺の化物だから無理は無いが三田光一が殆んど夫れと同じ如に觀客と口喧嘩をするのは所謂自覺術を下劣ならしめて損だ、自信や確信やは最も必要であるが其自信を表示するのに叱咤したり餘りに自らをのみ高く置くのは他に嫌惡の念を抱かしめてこれが爲め却つて喧噪惡罵を放たしむるから此れ損だ、と僕は思ふ、扨壽座圖太郎君が提出した金指輪を印刷物にて包み更に白紙にて包み糸にて堅く縛りたる實驗物は約二分間で美事適中した、次に提供せられたるは鉛のサックに金鎖樣のものを紙にて二重に包みて箱に納めたるものは約十五分を費したが大体の透視だけでサック內の透視は不成功に終つて次に提出せられたる物件の透視を終るや三田光一は公衆の面前に報告するを憚るものだと言つて明言しないスルト此を提出したる當人らしき一紳漢は構はぬ報告せよと迫る然らは皆樣のお許を蒙つてと斷つて美人の寫眞に古い即ち一度使用せられたるサックであると言つて封印を去り之れを檢したるに美人の寫眞に茶褐色に變じたる護謨製のサック、透視は美事に的中して提出者の下劣なる品性は曝露せられた然るに獸性の提出者は恥かしい相な顔もしない、要するに恥を知らぬのであらう彼は某所の役人であるとか餘興の奇術型の如くわつて喝采場裡に閉會したのが十一時頃、何にしても研究を要するのは事實だ（〇〇生）



▲自分は仁川の定期米に手を出し是迄損斗りしたり其後旭町一丁目山ノ內氏の易斷必勝法に依り去る九月以來五度とも大勝利を得たり誠に料の如し感謝するの外なし（京城黃金町宗〇木）▲京城市內にて測量術を教ゆる所有りやあらば當欄にて（一生）▲龍山生に致ゆ京城の催眠術家は皆さん御承知ひ看板揭げた南山の大關庵市井に隱れたる方には大和町の酒井さん日韓書房の加藤さん永樂町の渡邊さん先づ是等が斯道の大家ならん何れも熱心に研究せられつゝあり往て所說を敲きなさい（催眠術狂）▲十一日の本欄に日ノ出小學校三浦訓導のことを記載せられたるも彼は恐らく何か爲にせむとする中傷なるべし兒童に拙者は同訓導受持學年に兒童を通學せしめ居れども同訓導の嚴正公平なるには悅服し居れり拙者家庭の如きは下流の貧家庭なれども同訓導は親の屆かぬ所迄も親切を盡し呉るゝなり世の人を驚擊せしむとする者宜しく實際を見て不謹愼の言動なからむことを望む（南山町二ノ一父兄）▲依賴生君に申す存じ寄りの事なれば何事にても御答申す樣仕るべし（無）▲黃金町通りの取擴も着々進行してるが竣工の上は立派なものづらう（金時能）▲濟國館事館の明治町に移した方の塀を十間斗り引つ込ましたら上等だがなア（腰拔男）

諸公債諸株券 現物賣買
迅速確實に御取扱可申候
兼業 内外國洋服紳士品 諸官衙御用達
京城本町三丁目
大阪野村德七代理店
田中友吉商店（電話…）

最上山十印醤油
千葉縣銚子町 釀造元 岩崎重次郎
京城本町壹丁目 發賣元 三巳商會 電話七五三番



利子値下廣告
一元金五十圓以上百圓未滿 利子一ヶ月二歩五厘
一元金百圓以上千圓未滿 同 一ヶ月二歩
一元金千圓以上 同 一ヶ月一歩六厘五毛
右の通り本月一日より値下實行致候
特別に勉強仕候間倍舊御引立の程奉希望候敬具
追て御用の節は電話にて御一報次第店員派遣御用命可承候
一層叮嚀確實に御預り申
京城本町一丁目裏通（支那領事館筋）
南質店 電話一〇九六番

あさだあめ 淺田飴
肺病より起るたんせき 咽喉をそし聲を發せしむ 病後のよわり 貧血性諸症
本舖 東京 大阪 堀内
良藥にして口によく甘し
代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房 電話九百四番 十六番 振替口座京城十八番

代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房 電話九百四番 振替口座京城六十八番
ビタミン錠 … 本舖 大阪市 … 研究部 …

土地建物鑛山株券賣買
一市内宅地賣渡たし
一市外田畓山買受たし
一鑛業區權利讓受たし
小林藤商店
一恰好なる住宅賣物あり
一有望なる未墾地權利讓物あり
一電話讓物あり
（京城旭町二丁目 電話六五五番）

高島易斷
旭町一丁目御樓裏 大觀亭 山の内

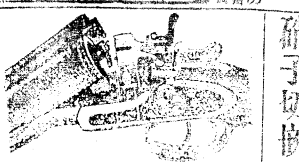
米穀 株式
定期現物 確實取扱 秘密嚴守
仁川米豆取引所仲買人 倉重商店
京城南山町三丁目三番戸 倉重支店 末富榮之助商店 電話九六五番 三五六番
大阪株式取引所仲買人 北治株式店

御今も造る 京城藥舖 ……

繁榮會御指定
幟提灯申込所
今般繁榮會の御指定に依り十二月一日より御執行に相成候大賣出し既定の幟及軒提灯は弊店等に於て引受け申候就ては準備の都合有之候間大至急御用命の程偏に希上候
申込所 京城本町五丁目 電話一九八五番 龜屋染工場
京城明治町一丁目 傘提灯商 大嶋商店 電話一六三五番

板硝子 厚鏡 一式
ペンキ材料 一式
建築用ペンキ 其他塗物一式
硝子切嵌（御好に依り何れにても）
京城本町六丁目五九番戸 小田商店販賣部 電話四八六番
京城本町六丁目六一番戸 同 工業部 取次電話四八六番

火藥類及內國製外國製獵銃安價販賣
大阪市東區本町三丁目
西村銃砲店
長距離電話東二四六〇番 振替大阪二四〇番
正價表進呈（端書にて申込まれよ）



文房具 和洋紙 測量器械
日本政府檢定濟 度量衡器特許輸入販賣所
シノサキ本店
京城本町一丁目（郵便局前）
電話長七百五番 電話六四八番 振替口座朝鮮一五四番

日本教育文庫
全部完成 即時送本＝（紙數壹萬頁）＝
今が購入の絶好機會
我が出版界のレコードを破れる驚くべき低廉なる本書の特價を撤回す
我が「日本教育文庫」は本邦古來の敎訓的古典珍籍大約四百四十萬言を以て之を覆刻したるものにして今日まで入手すること到底得難き珍書少なからず其の內容は眞に比類なきものにして我が國民精神の表現たるものに各學校には勿論日本紳士の家庭には傳家の重寶として必ず備ふべき書なりとす＝
見本進呈 送料二錢
特價 索引出來 全十二册購入者へ無代進呈
すべき內容
撰擇購入せられたる諸君も此際全部取揃へらるべし
期限十一月三十日限り
撰擇分賣の便宜あり（一册金一圓七十錢郵稅金十二錢）但し間もなく此の大提供は撤回し直に正價金二十四圓に引上ぐべきが故に今尚ほ撰擇せる諸君は最早決心して今日即時御申込あらざるべからず
定價廿四圓 郵稅內地九十六錢
全十二册 特價金拾八圓
一册賣一圓七十錢 郵稅十二錢
京城本町二丁目 日韓書房 電話一四五番 振替一一五番

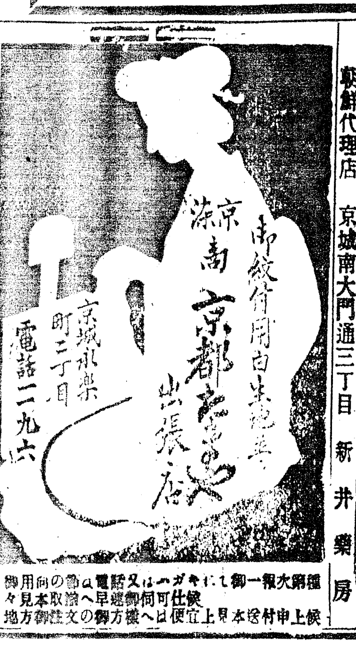
參版 特價發賣
法學博士 青木徹二先生著
新成 即時送本
新商法釋義
改正商法は十月一日より施行せられたり斯法の研究は焦眉の急＝初版忽ち賣切れ再版參版今日出來
布裝釘全一册 定價二圓八十錢
特價二圓卅錢 稅內地十六錢
我が商法は今回第一編總則より會社、商行爲、手形、海商等其の他の條項に少なからざる改廢加除を見るに至れり而して之が正確なる適切の參考書を缺けるは諸君子の最も不便とせらるゝ所乃ち我が國文館は方今商法學者中第一流の士を以て推さるゝ青木博士を煩はし茲に本書を公刊し以て此の學殖と其の經驗とを充たさんとすもの本書は博士が其實地經驗を加へられたる新商法第一條より條々の多年の周密なる研究を加へられたる新商法第一條より逐條解說を試み平易に且つ明晰なる說明を以て讀者をして一讀の下に容易に之を理解し得べく此の種の類書中正に第一を以て推すべきものたり
京城本町二丁目 日韓書房 電話一四五番 振替一一五番

大村教育著述全集
我が國家庭教育の新紀元は本書によりて開かるべき也
子女の敎育の爲め父母長者の必ず熟讀玩味すべき書として我が家庭の聖典となり一世の人心に深甚なる感化を與へたる本書は更に遺稿「文明の妻」其他數十篇を加へ新たなる裝釘を施し全三册二千頁の尨然たる巨卷となりて出でたり寓意小說あり隨筆あり論文あり全卷を通じて著者の高邁なる敎育上の信念と懷抱とを窺ふ可く其の兒童に對する博大なる同情は句々の間に溢れて悉く家庭を稗益せしむべし
布裝釘全三册 紙數二千頁 定價金六圓
特價金四圓八十錢 郵稅內地廿八錢
今日が申込の絶好機會なり
苟くも女子の教養に注意する者今や必ず本書を備へつゝあるの事實は先生の著述が不朽の生命を有することを保證するものならずや別て下青年男女の間に不健全なる思想の蔓延せんとする際とて本書の發行は異常なる歡迎を受け各方面より既に續々として注文に接しつゝある狀況也特に店員全部は爲に忙殺されつゝあるの此際今日直に申込みて此の期限切迫の生命ある熱血ある名著に接せよ
特價 期限十一月三十日 內容見本 御申込次第進呈 送料二錢
京城本町二丁目 日韓書房 電話一四五番 振替一一五番

誠ハ弊店ノ主義也


釀造元 仁川港宮町三丁目 深見勝三郎 電話二四八番 電信略號（フ）

懷中良藥
消化と毒けし 仁丹
●諸君いつも仁丹を召上れ
香味、芳香優絶の仁丹は……最もよくきく靈藥
朝鮮代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房



御用向の節は電話又は一ヶ御一報下されば直ちに參上仕候 御見本何時にても御取寄せ相成り度く 地方御註文の向へは御便宜相計可申候

M.C.C.
土耳古紙卷 エムシーシー
專賣局定價は百本に付金五圓貳拾錢なるも朝鮮内は大安賣
京城、平壤龜屋……釜山、木浦、群山 高瀨支店

世界一のかぜ藥
全國藥店にあり

蛇印 アンチピリン丸
ねつはやりかぜづつうりうまちすに大効あり
藥價 五戔・十戔・十五戔・廿五戔
發賣元 大阪心齋橋二丁目 丹平商會
本舖 東京日本橋 丹平商會
代理店 京城 新井藥房 電話九〇四番、一〇六八番 振替口座京城十六番